

資料

1 歌唱共通教材一覧（小学校・中学校）

<小学校>

| | 曲名 | 作詞者・作曲者 | | | |
|------|------------------------|-------------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 第一学年 | 「うみ」 | (文部省唱歌) 林 柳波 作詞 井上武士 作曲 | 各学年で四曲すべてを扱うこと | | |
| | 「かたつむり」 | (文部省唱歌) | | | |
| | 「日のまる」 | (文部省唱歌) 高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲 | | | |
| | 「ひらいた ひらいた」 | (わらべうた) | | | |
| 第二学年 | 「かくれんぼ」 | (文部省唱歌) 林 柳波 作詞 下総皖一 作曲 | | 各学年で四曲すべてを扱うこと | |
| | 「春がきた」 | (文部省唱歌) 高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲 | | | |
| | 「虫のこえ」 | (文部省唱歌) | | | |
| | 「夕やけこやけ」 | 中村雨紅 作詞 草川 信 作曲 | | | |
| 第三学年 | 「うさぎ」 | (日本古謡) | | | 各学年四曲の中から三曲を含めて扱うこと |
| | 「茶つみ」 | (文部省唱歌) | | | |
| | 「春の小川」 | (文部省唱歌) 高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲 | | | |
| | 「ふじ山」 | (文部省唱歌) 巖谷小波 作詞 | | | |
| 第四学年 | 「さくらさくら」 | (日本古謡) | 各学年四曲の中から三曲を含めて扱うこと | | |
| | 「とんび」 | 葛原しげる 作詞 梁田 貞 作曲 | | | |
| | 「まきばの朝」 | (文部省唱歌) 船橋栄吉 作曲 | | | |
| | 「もみじ」 | (文部省唱歌) 高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲 | | | |
| 第五学年 | 「こいのぼり」 | (文部省唱歌) | | 各学年四曲の中から三曲を含めて扱うこと | |
| | 「子もり歌」 | (日本古謡) | | | |
| | 「スキーの歌」 | (文部省唱歌) 林 柳波 作詞 橋本国彦 作曲 | | | |
| | 「冬げしき」 | (文部省唱歌) | | | |
| 第六学年 | 「越天楽今様」 (歌詞は第2節まで) | (日本古謡) 慈鎮和尚 作歌 | | | 各学年四曲の中から三曲を含めて扱うこと |
| | 「おぼろ月夜」 | (文部省唱歌) 高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲 | | | |
| | 「ふるさと」 | (文部省唱歌) 高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲 | | | |
| | 「われは海の子」 (歌詞は第3節まで) | (文部省唱歌) | | | |

<中学校>

| 曲名 | 作詞者・作曲者 | 指導上の配慮事項 |
|---------|-------------------|---|
| 「赤とんぼ」 | 三木 露風 作詞 山田 耕筰 作曲 | 各学年ごとに1曲以上を取り扱う ※中学校3学年間を見通した指導計画の下、生徒や地域の実態を考慮して、系統立てて効果的に指導する。 |
| 「荒城の月」 | 土井 晩翠 作詞 滝 廉太郎 作曲 | |
| 「早春賦」 | 吉丸 一昌 作詞 中田 章 作曲 | |
| 「夏の思い出」 | 江間 章子 作詞 中田 喜直 作曲 | |
| 「花」 | 武島 羽衣 作詞 滝 廉太郎 作曲 | |
| 「花の街」 | 江間 章子 作詞 團 伊玖磨 作曲 | |
| 「浜辺の歌」 | 林 古溪 作詞 成田 為三 作曲 | |

2 静岡県ゆかりの歌

「ちゃつきり節」

作詞：北原白秋 作曲：町田嘉章

「ちゃつきり節」は、静岡鉄道が、狐ヶ崎遊園地開設のPRのため、作られたCMソングだった。北原白秋は、料亭「浮月」で宴会を催した折、芸者が「きゃあるが泣くんで、明日は雨づらよ…」という^{つぎや}呟きに^{ひらめ}閃きを感じ、一気に書き上げたという。

「静岡県こころのうた」静岡県教育委員会 平成8年発行

「夏の思い出」

作詞：江間章子 作曲：中田喜直

※作詞者は現在の静岡城北高校出身

「背くらべ」

作詞：海野 厚 作曲：中山晋平

※作詞者は静岡市出身

静岡県ゆかりの歌

「みかんの花咲く丘」

作詞：加藤省吾 作曲：海沼 実

この曲は終戦間もない昭和21年の作品。NHKラジオ番組で、東京のスタジオと、伊東の小学校をつないで放送することとなり、一夜で書き上げたこの作品は、子どもだけでなく、大人たちの共感を呼びまし、一躍全国に鳴りひびいた。

※作詞者は富士市生まれ。

「静岡県こころのうた」静岡県教育委員会 平成8年発行

「月の砂漠」

作詞：加藤まさお 作曲：佐々木すぐる

※作詞者は藤枝市出身

「汽車ポッポ」

作詞：^{ふはら}富原 薫 作曲：草川 信

作詞者が昭和13年、御殿場市立高根小学校教諭のとき発表されたものである。国鉄御殿場線を走る蒸気機関車をテーマにし、当初は「兵隊さんの汽車」という題であったが、その後、「兵隊さんをのせて」の部分を「僕等をのせて」と改作し、題名も「汽車ポッポ」と改められた。

「静岡県こころのうた」静岡県教育委員会 平成8年発行

これらのほかにも、

- ・合唱組曲「駿河の歌」
(作詞：宮沢章二 作曲：湯山 昭)
- ・童謡「赤い靴」(モデルは旧清水市出身の少女)
- ・管弦楽「交響詩 駿河」(作曲：團 伊玖磨)

など、様々な曲があります。

3 用語解説（小学校）

小学校学習指導要領解説 音楽編（平成20年8月）に掲載されている用語を抜粋して示しています。掲載ページ以外にも示されているものもあります。

| 文言・用語 | 解説 | 掲載ページ |
|--------------|--|---------|
| 音の重なり | 複数の高さの音が同時に鳴り響くことによって生まれる縦の関係。ここでは、音が重なり合うことによって生まれる響きのよさや美しさを感じ取ることが主なねらいとなる。 | 小-p. 49 |
| 音階 | ある音楽で用いられる基本的な音をおよそ1オクターブ内で高さの順に並べたもの。 | 小-p. 49 |
| 音楽活動の基礎的な能力 | 生涯にわたり児童が楽しく音楽とかかわっていくことができるよう、小学校の段階ではぐくんでおきたい表現及び鑑賞の活動に必要な音楽的な能力のことを意味している。具体的には、児童が感じたことや心に描いたことを、自らの声や楽器あるいは自らつくった音楽を通して表現することや、音楽のよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、想像力を働かせて聴くことができる能力のことを指している。 | 小-p. 9 |
| 音楽づくり | 児童が自らの感性や創造性を発揮しながら自分にとって価値のある音や音楽をつくること。 | 小-p. 16 |
| 音楽に対する感性 | 音楽的な刺激に対する反応、すなわち音楽的感受性にとらえることができる。この音楽的感受性とは、音楽の様々な特性に対する感受性を意味している。具体的には、音楽を感覚的に受容して得られるリズム感、旋律感、和声感、強弱感、速度感、音色感などであり、表現及び鑑賞の活動の根底にかかわるものである。 | 小-p. 8 |
| 音楽の仕組み | 反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係 | 小-p. 18 |
| 音楽の縦と横の関係 | 音の重なり方を縦、音楽における時間的な流れを横と考え、その縦と横の織りなす関係を指している。音楽を、音楽の縦と横の関係から聴き取り、その働きを感じ取ることが大切となる。 | 小-p. 65 |
| 音楽を形づくっている要素 | 「音楽を特徴付けている要素」及び「音楽の仕組み」に加え、歌詞、歌い方や楽器の演奏の仕方、演奏形態など、音楽というものを形づくっている要素を含むもの。 | 小-p. 18 |
| 音楽を特徴付けている要素 | 音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れ、フレーズ、音の重なり、音階、調、和声の響き | 小-p. 18 |
| 階名唱 | 移動ド唱法のこと。この唱法によって、音と音との関係を感じ取るという相対的な音程感覚が身に付くようになる。 | 小-p. 72 |
| 楽器の特徴 | 楽器のもつ固有の音色や音域、楽器の演奏の仕方による表現の多様さ。 | 小-p. 57 |
| 楽曲の気分 | 「曲想」のうち、低学年の児童が感じ取りやすい「気分」をとりあげたもの。 | 小-p. 23 |

| 文言・用語 | 解 説 | 掲載ページ |
|-------------|---|---------|
| 強弱 | 音の大きさ、音量のような絶対的な数値で表されるものだけでなく、楽曲の各部分で相対的に感じられるもの。音色とかかわって、力強い音、優しい音などの音の質感によって強弱が表されることもある。 | 小-p. 33 |
| 曲想 | その楽曲に固有な気分や雰囲気、味わい、表情を醸し出しているもの。 | 小-p. 18 |
| 調 | 主に長調と短調の2種類に代表されるもの。小学校段階では、中学年においてはハ長調を、高学年においてはハ長調及びイ短調を取り扱う。 | 小-p. 49 |
| 調整にとらわれない音階 | 長調や短調以外の音階のこと。諸外国の様々な音階や半音音階など。 | 小-p. 75 |
| 問いと答え | ある音やフレーズ、旋律に対して、一方の音やフレーズ、旋律が互いに呼応する関係にあるものを指す。例えば、Aというという問いに対して同じようにAと答えるもの(模倣)、Aに対してBやCといった異なった音やフレーズ、旋律で答えようとするもの(対照)、長いAに対して短いBを挿入するもの(合いの手)などがある。一人が歌いかけそれに大勢が答えて歌うという形式もある。 | 小-p. 33 |
| 音色 | 声や楽器などから出すことができる様々な音の表情。一人の声や一つの楽器から、歌い方や楽器の演奏の仕方を工夫することによって、多様な音色を引き出すことができる。 | 小-p. 33 |
| 拍節的でないリズム | 一定した拍や拍子感がないリズムのこと。 | 小-p. 75 |
| 拍の流れ | 音楽の拍が一定の時間的間隔をもって刻まれたり、間隔に伸び縮みが生じたりすること。 | 小-p. 33 |
| 反復 | リズムや旋律などが連続して繰り返される反復、音楽のいくつかの場所で合間をおいて繰り返される反復、A-B-Aの三部形式に見られる再現による反復などがある。 | 小-p. 33 |
| 副次的な旋律 | 主な旋律の流れに合わせた別の旋律であり、音の高さやリズムが違う旋律のこと。 | 小-p. 39 |
| フレーズ | 音楽の流れの中で、自然に区切られるまとまり。 | 小-p. 33 |
| 変化 | 音楽を特徴付けている要素及び音楽の仕組みのかかわり合いが変わることによって起こるもの。 | 小-p. 49 |
| 模唱 | 教師や友達が歌うのを聴いてまねて歌うこと。 | 小-p. 22 |
| 和声の響き | 調のある音楽での音の重なりとその響き。 | 小-p. 65 |

4 用語解説（中学校）

中学校学習指導要領解説 音楽編（平成20年9月）に掲載されている用語を抜粋して示しています。掲載ページ以外にも示されているものもあります。

| 文言・用語 | 解 説 | 掲載ページ |
|--------------|--|--|
| 味わう | 対象から感じ取ったものの価値を自らの感性によって確認することであり、ここには価値を判断することが含まれている。 | 中-p. 43 |
| 音素材（創作） | 声や楽器の音のほか、自然界や日常生活の中で聴くことのできる様々な音が含まれる。 | 中-p. 32 |
| 音階 | 曲種や楽曲によって多種多様なものがある。 | 中-p. 68 |
| 音楽活動の基礎的な能力 | 生涯にわたって楽しく豊かな音楽活動ができるための基になる能力 | 中-p. 8 |
| 音楽に対する感性 | 音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取るときの心の動き | 中-p. 7 |
| 音楽の構造 | 音楽を形づくっている要素そのものや要素同士のかかわり方及び音楽全体がどのように成り立っているかなど、音や要素の表れ方や関係性、音楽の構成や展開の有り様など | 中-p. 14 中-p. 35 |
| 音楽を愛好する心情 | 生活の音楽を生かし、生涯にわたって音楽を愛好しようとする思い | 中-p. 7 |
| 感受 | 音や音楽の特質や雰囲気などを感じ、受け入れること | 中-p. 39 |
| 曲種に応じた発声 | それぞれの楽曲の特徴を表現することができるような発声のこと | 中-p. 26 |
| 曲想 | 音楽を形づくっている要素や構造の働きから生み出される、その音楽固有の表情、雰囲気、気分や味わいなどのこと | 中-p. 14 中-p. 17 中-p. 25 中-p. 36 |
| 曲にふさわしい | 多くの人が共通に感じ取れるような、楽曲固有のよさや特徴のとらえ方を意味している | 中-p. 43 |
| 言葉の特性 | 言葉の抑揚、アクセント、リズム、子音・母音の扱い、言語のもつ音質、語感など | 中-p. 26 |
| 根拠をもって批評する | 音楽のよさや美しさなどについて、音楽を形づくっている要素や構造などの客観的な理由をあげながら言葉で表すこと。自分なりの感じ方、客観的な根拠、自分にとっての価値について述べる | 中-p. 51 |
| 指揮などの身体的表現活動 | 指揮、舞踊、形式にとらわれない自由な身体的表現などのこと | 中-p. 64 |
| 自然音や環境音 | 風の音、川のせせらぎ、動物の鳴き声、機械の動く音など、生活や社会の中に存在する様々な音 | 中-p. 66 |
| 序破急 | 我が国の伝統音楽において、速度が次第に速くなる構成や形式上の三つの区分を表すものとして用いられているもの | 中-p. 68 |

| 文言・用語 | 解 説 | 掲載ページ |
|-----------------|---|--------------------|
| 即興的に音を出す(創作) | 創作の活動において、理論的な学習を参考させ過ぎたり、はじめからまとまりのある音楽をつくることを期待したりするのではなく、生徒がその時の気持ちや気分にしたがって、自由に音を出してみることを意味する。特に出した音を良く聴いて、音の質感を感じる事が重要となる。 | 中-p. 63 |
| 知覚 | 聴覚を中心とした感覚器官を通して音や音楽を判別し、意識すること | 中-p. 39 |
| 知的財産権 | 知的な創作活動によって何かをつくり出した人に対して付与される他人に無断で利用されない権利である。この中の一つに著作権がある。 | 中-p. 66 |
| 調 | 中心となる音がハ音の長音階で形づくられている音楽をハ長調と言うことなど、調整音楽においては最も基本的なもの | 中-p. 68 |
| テクスチャ | 音と音が同じ時間軸上で垂直的にかかわったり、時間の流れの中で水平的にかかわったりして、織物の縦糸と横糸のような様相で様々な音の織りなす状態。「和声を含む音と音とのかかわり合い」と同じ趣旨のものである。小学校の音楽科における「音楽の縦と横の関係」の学習の上に立つ。 | 中-p. 19 中-p. 20 |
| 動機 | 音楽を構成する単位として最も小さなもの | 中-p. 68 |
| 拍 | 音楽を時間の流れの中でとらえる際の基本的な単位 | 中-p. 67 |
| 表現を工夫して歌う(演奏する) | 表現したい思いや意図をもち、要素の働かせ方を試行錯誤し、よりよい表現を見いだして歌う(演奏する)こと | 中-p. 25 中-p. 28 |
| 拍子 | 音楽を時間的なまとまりとしてとらえる際の手掛かりとなるもの | 中-p. 68 |
| フレーズ | 音楽の流れの中で、自然に区切られるまとまり | 中-p. 68 |
| 間 | 我が国の伝統音楽におけるリズムや速度に関する特徴的なものの一つ | 中-p. 68 |
| 和音 | 高さの違う二つ以上の音が同時に響くことによって生まれるもの | 中-p. 68 |
| 我が国の伝統的な歌唱 | 我が国の各地域で歌い継がれている仕事歌や盆踊り歌などの民謡、歌舞伎における長唄、能楽における謡曲、文楽における義太夫節、三味線や箏などの楽器を伴う地歌・箏曲など、我が国や郷土の伝統音楽における歌唱を意味している。 | 中-p. 34 |